特活研究

No.92　－今こそ特別活動！－

2021. 3　愛媛県教育研究協議会　特別活動委員会

「興居島　船越和気比売神社」
（興居島小・中学校　校長　八木誠一　画）

特別活動は止まらない

愛媛県教育研究協議会特別活動委員会
特別活動委員長　**徳　本　典　久**

東京オリンピック開催を誰もが待ち望んだ2020年は、２月に新型コロナウイルス感染症対策としての臨時休校措置の発表で、学校現場は波乱の幕開けとなりました。あのとき、子どもたちはもちろん、各学校の特別活動主任はとりわけ衝撃と不安感を覚えたことでしょう。既に年度末に向け計画準備が進められていたであろう「卒業生を送る会」等の児童会・生徒会活動や卒業式など、一年のしめくくりとして大きな節目となる子どもたちの活動を、どのように保障し支援すればよいのか、先の見通せない事態に苦悩したことと思います。

そして令和２年度、入学式をはじめとして運動会や校内集会活動など数々の校内行事は、中止や規模縮小を余儀なくされました。しかし、「できないなら中止すればいい」という短絡的な判断では済まされないことは、誰もが感じていたはずです。この一年間、学校現場では過去に経験したことのない制約の中にあっても、「主役は子ども。子どもたちの思いや願いを何としてでも叶えたい。今、子どもたちのために支援できることは何か」という多くの先生方の熱意に支えられ、子どもたちと共に悩み、知恵を絞ってきました。そして、各校の取組を耳にするたび、工夫と努力で創意工夫し心通わせる活動を展開してきたそれぞれの歩みの中に、県内の先生方の大きな特活愛が脈々と消えることなく流れていたのを強く感じることができました。

特別活動委員会としましても、1967年の第１回大会（八幡浜大会）以来、半世紀もの長きに渡り、各支部の先生方に協力をいただきながら会場を輪番で変え毎年実施してきた夏季研究会が、残念ながらコロナ禍の影響で初めて中止せざるを得なくなりました。しかし、特別活動を愛する県内の先生方の熱き思いは消えることなく、その成果を上げてきたおかげで、コロナ禍においても、いや、今のような状況だからこそ「人と人をつなぐ」特別活動の必要性をこれまで以上に感じることができたと信じています。改めて児童生徒の主体的・協働的な活動の意義を見つめ直し、子どもたちの夢や願いから生まれる無限のパワーを、どの学校も支えてきたのではないでしょうか。

平成29年の学習指導要領改訂では、小学校にも中学校と同様にキャリア形成のための学級活動(3)が内容に新しく加わり、特別活動はキャリア教育の要としての役割を担っていることも明記されました。愛媛県特別活動委員会は、四国四県の中で唯一、小学校・中学校が連携して研究推進に取り組む体制ができており、令和４年度に今治市常盤小学校を会場に開催予定の四国大会に向け、研究実践が進んでいます。

何事も無理だと決めて、シャッターを自分でおろした時点で道は閉ざされます。無理の先に道があるのです。新しい生活様式の中で、子どもたちの学びが止まることはありません。生きる喜びや勇気は、他者とのかかわりの中で生まれます。「なすことによって学ぶ」特別活動は、互いの思いや考えを交流し、つながりを深めることのできる「心をつなぐ学び合い」です。それは、子どもたちが自らの姿で私たちに教えてくれます。子どもたちと共にある愛媛特活の歩みは、今後も立ち止まることなく続いていくのです。

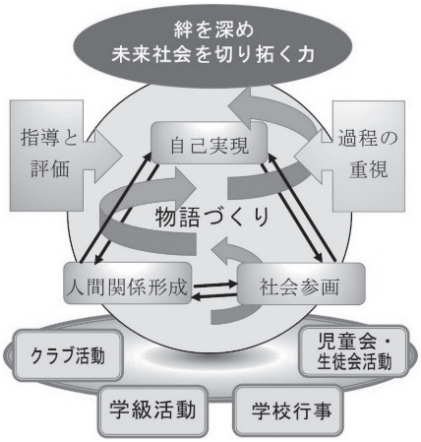
（小・中学校共通）特　別　活　動

Ⅰ　研究主題

絆を深め、未来社会を切り拓く力を育む特別活動の創造
―「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点を踏まえた『物語づくり』の実践を通して―

Ⅱ　研究主題のとらえ方

現在、子どもたちを取り巻く環境は、新しい生活様式の中で今までどおりに人とのつながりを築くことが難しくなっている。また、急速な情報化の進展に伴い、必要な情報を適切に活用する能力を育成する重要性は、ますます高まっている。このような急激な変化の中において、予測困難な時代に多様な価値観を認め合いながら、多様な方法で人とつながる力を身に付けることは重要である。特別活動は、様々な集団活動を通して、児童生徒が、社会で生きる基盤となる力を育む活動として機能してきた。また、協働性や互いを認め合う土壌をつくり、生活集団、学習集団として機能するための基盤となってきた。「なすことによって学ぶ」という実践的な活動は、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化への醸造へとつながり、学校の特色ある教育活動の展開を可能とする。それゆえにどのような状況下でも、人間関係の希薄化やコミュニケーション力の低下を招かないための創意工夫が、今こそ求められる。



そこで、今後も「絆を深める」というテーマで、人との関わりをより重視し、心の育ちに着目した内面的な結びつきを大切にしながら、よりよい人間関係を築くための研究を進める。「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえて、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、集団の中で個が成長し、その成長が結びつきながら集団の成長へとつながる。この成長過程の足跡こそが自分たちの物語である。特別活動における、子どもたちの手による『物語』をつくる中で培う「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることが、社会の一員として、自ら未来社会を切り拓く力を育み、自分らしい生き方へとつながっていく。

Ⅲ　研究のねらい

1　「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点を踏まえて、児童生徒の絆が深まるような授業実践やその振り返り方法について実践的に研究する。

2　「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、未来社会を切り拓く力を育む特別活動の在り方を、各教科や特別の教科道徳、総合的な学習の時間等との関連を図りながら研究し特色ある活動の創造に努める。

Ⅳ　研究の視点

1　よりよい人間関係を築く資質・能力の育成
～魅力ある学級の物語づくり～

一人一人が生かされる学級活動を展開し、それに伴い集団も成長する学級文化を育む。

○　温かい学級集団の中で、よりよい生活を築く実践のための話合い活動の充実
○　よりよい人間関係を形成し、自己の成長を目指す意思決定の在り方
○　キャリア形成と自己実現を図る一人一人の意思決定の在り方

２　よりよい学校生活・ボランティア活動などの社会参画する資質・能力の育成
～自発的・自治的な児童会・生徒会活動の物語づくり～

学級や学年を超えた児童生徒相互の連帯感を深める自発的、自治的な活動を効果的に展開する。

○　児童生徒が主体的に創りあげ、よさを認め合える異年齢集団活動の充実

○　児童生徒が主体的に組織づくりを行い、課題解決のために合意形成を目指す実践の在り方

３　よりよいつながりを楽しむ資質・能力の育成
～協働し、認め合うクラブ活動の物語づくり（小学校）～

異年齢集団での活動を通して個性の伸長を図り文化を実体験できる活動を工夫する。

○　地域の特色を生かし、地域の人や文化とつながるクラブ活動の設定

○　異年齢集団で共通の興味・関心をより深く追求するクラブ活動の指導と評価の工夫

４　よりよい校風を確立しようとする資質・能力の育成
～集団への所属感、連帯感を深める学校行事の物語づくり～

創造的でダイナミックな体験ができる場や時間を保障し、所属感や連帯感を培う。

○　児童生徒の主体的参加で、特色ある学校やよりよい校風づくりにつながる学校行事の工夫

○　多様な他者との交流や豊かな体験活動を通して感動を生み出す行事の工夫

Ⅴ　評　価

1　特別活動の目標を分析し、育成しようとする資質や能力と評価の関係を明確にし、評価の観点を各学校において独自に設定し、指導と評価に生かす。【評価の観点】

2　各内容の目標を踏まえ、学校の実態や発達の段階等に即して、評価規準を明確にし、児童生徒一人一人のよさや成長を加点評価する。その際、集団の質の高まりについても評価し、その後の活動に生かす。【個と集団の評価】

3　活動の過程を重視し、自己評価、相互評価、教師の観察、児童生徒の記録等を活用し、継続的、多面的、総合的に児童生徒の変容を評価することで、活動意欲につなげる。【評価の方法】

Ⅵ　留意事項

○　全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かし、学級、学校づくりを念頭に置きながら、学校の実態や児童生徒の発達の段階等を考慮して自発的、自治的な活動が助長されるようにする。また、各教科等の特性を踏まえ、適切な関連を図るとともに家庭や地域の人々との連携を工夫する。また、それらの計画は、必ず評価を伴うものとする。

○　特別活動と道徳教育は、子どもの心を育てる二つの大きな原動力であり、両者の関連付けを研究しながら、子どもの変容を評価につなげる。特別活動での学級や学校生活における集団活動や体験活動は、日常生活においての道徳的実践の場となる。特に、自己の生き方について考えを深め、集団のために働き、その一員としての責任や役割を担うなどの社会参画の力を育てるためには、特別の教科道徳の授業との関連が重要となり、両者の特質を十分理解し、道徳性の育成へとつなげる。

○　児童生徒一人一人が社会的・職業的自立のために必要な能力を育成するため、自らの生き方を考えることができるよう、発達段階に応じ、小中連携を図った組織的・系統的なキャリア教育を推進する。その際、「キャリア・パスポート」を活用するなど工夫しながら、希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成し、社会参画意識を醸成する活動等の研究を進める。

令和３年度に開催予定の研究大会

○　第52回愛教研特別活動夏季研究会　７月30日（金）　松山市教育研修センター・愛媛大学

○　第65回全国特別活動研究協議大会　埼玉大会　８月19日（木）・20日（金）　埼玉会館

○　第55回小学校学校行事研究大会　神奈川・横浜大会　令和４年２月（令和２年度分延期）

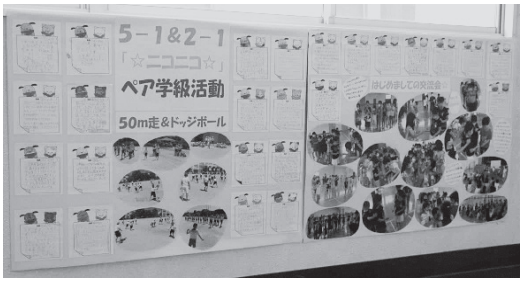
○　第50回全日本中学校特別活動研究会　未定

今治市立常盤小学校の実践
～令和４年度四国特活に向けて～

第５学年１組　学級活動(1)　指導案
指導者　今治市立常盤小学校　明比　宏樹

１　日　時　令和２年10月７日(水）第５校時
２　場　所　屋内運動場
３　議　題
「ペア学級ハロウィンパーティーの計画を立てよう」
４　議題について
(1)　児童の実態
委員会活動や朝のボランティア清掃、クラスでの当番・係活動などにおいても、一人一人が自覚と責任をもって行っている姿が見られ、プレリーダーとしての意識が高まってきている。
１学期は現在のコロナ禍でできることを模索しながら、様々な議題で話合い活動を行った。また、この状況を大きなチャンスと捉え、三密を避けて、「今しかできないこと」を創意工夫を凝らして考え、自分たちが「できる方法」を探しながら活動に取り組んでいる。ときわっ子会議で合意形成・集団決定し、実践する経験を通して、児童は話合い活動の楽しさや達成感と同時に、意見をまとめることの難しさを感じている様子であった。
(2)　議題選定の理由
１学期のペア学級活動においては、「はじめましての交流会をしよう」、「ペア学級スポーツ大会をしよう」という議題で話し合い、実践を行った。
２学期からはペア清掃も始まり、５年生が下学年に掃除道具の使い方や掃除の仕方を教えながら、協力して行っている。９月の運動会では、ペア学年とダンスを一緒に練習し、心を一つにして表現することができた。
議題ボードには、「これまでの経験を生かして、ペア学級で協力して楽しい活動をしたい」、「２年１組のみんなともっと仲良くなりたい」という提案が出され、「ペア学級ハロウィンパーティー」を実施するための計画を立てることにした。この話合いと話合いに基づく実践を通して、５年生と２年生が互いの良さに気付き、協力してより良い人間関係を築くとともに、みんなで力を合わせてやり遂げる楽しさや充実感を実感してほしい。そして、これまで以上に２年生と仲良くなり、絆を深めるのと同時に常盤小学校のネクストリーダーとしての自覚を芽生えさせ、現在のコロナ禍の中でもできることを創造していく過程を大切にしたい。
(3)　指導の工夫
ア　(2)－ア「２つのめあて」の提示
本学級の話合い活動では、めあてを「話す」と「聞く」の２つに分け、提示している。前回の話合い活動における課題を次回のめあてに組み込み、児童が前回の反省を意識して話合いを行うことができるように継続して指導している。
イ　(2)－ア「折り合いショップ」の提示
今年度は、「折り合いモデル」（第51回愛媛県特別活動夏期研究会の資料より）を参考にし、様々な折り合いの付け方を児童が理解しやすいように、身近な食べ物で表した「折り合いショップ」を提示して話合い活動を行っている。

ウ　(3)－ア　これまでの実践の可視化と振り返り
一連の学習過程の中で、事後の振り返りは重要な役割を果たすと考えている。話合い活動・準備・実践の後には、振り返りシートを記入させ、成果や課題、活動の内容を分析し、自分やクラスの成長を実感したり、次の課題解決に生かしたりすることができるように指導している。



エ　(2)－ア「キーワードマーク」の活用
（南九州市立松ヶ浦小学校の実践を参考）
話合いの論点がずれないように、提案者の思いや願いが入っている提案理由の中から合意形成の基になるキーワードを３つ決め、緑・青・オレンジの３色に分類して明示し、キーワードに沿った意見にはマークを貼っていくようにした。
５　評価規準
６　事前の活動（計画委員会と学級全員の活動）
9/ 7　計画委員会＆招待状作り
9/18　計画委員会２＆２年生へ議題の説明
9/23　メインのイベントを決める。
9/24　計画委員会（役割分担）
10/ 2　準備
10/ 6　リハーサル
７　本時の指導 → 次ページ
８　事後の活動
10/ 8　２年生に伝える＆掲示
10/12　役割分担
10/13～準備
10/30　実践
10/30　実践の振り返りと共有

７　本時の展開

(1)　ねらい

○　「ペア学級ハロウィンパーティーの計画を立てよう」の議題についての話合いを通して、自分と友達の考えを比較したり、多様な意見を生かす方法を見付けたりして、より良い計画を立てることができるようにする。

(2)　指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1　始めの言葉	○　議題や提案理由、めあてなど必要なことを黒板に提示し、話合いの流れをつかめるようにする。	
2　司会グループの紹介	○　司会グループのメンバーに自己紹介と自分のめあてを発表させ、責任をもって、ときわっ子会議を進行する意欲を高める。	
3　議題の確認	「ペア学級ハロウィンパーティーの計画を立てよう」	
4　提案理由やめあての確認	○　議題と提案理由、話合いのめあては黒板に提示しておき、いつでも確認できるようにしておく。	
5　決まっていることと、話合いの内容の確認	○　決まっていることを明示し、実施条件を明らかにする。 ＜決まっていること＞ ①　日時：10月30日(金)　第４校時 ②　時間：45分間（準備・片付けを含む） ③　場所：体育館	
6　話合い 【柱１】 ○　「合言葉を見つけろ！謎解き☆脱出ゲーム」の内容はどうするか。（コロナ禍の中での工夫を入れる）＜20分＞ 【柱２】 ○　パーティー全体の工夫はどうするか。＜15分＞	○　話合いの柱１・２及び時間の目安を確認し、話合いの見通しを持つことができるようにする。 ＜事前の話合いで決まったこと＞ メインイベントで何をするか。 「合言葉を見つけろ！謎解き☆脱出ゲーム」 ○　司会グループは、事前に記入した短冊を分類して掲示しておく。 ○　自分の考えを具体的に説明できるようにする。 ○　出された意見を比較・検証し、自分の考えを修正したり、深めたりするよう助言する。 ○　提案理由や話合いのめあてに沿って話合いが進められるように助言する。	【思考・判断・表現】 ☆　自分の考えと友達の考えを比較しながら、２年生も活躍し、全員が楽しめるような内容や工夫について、話し合うことができている。（観察） ○　出された意見を基に、「折り合いショップ」を活用して、状況に応じた折り合いの付け方を選択し、意見をまとめる。 ○　「キーワードマーク」を用いて、合意形成の基になる言葉を意識させ、提案理由に沿った話合いをする。
7　決まったことの発表	○　決まったことを全体で確認し、今後の見通しをもつことができるようにする。	
8　話合いの振り返り ○　話合い全体の反省 ○　自分自身の反省	○　司会グループには、話合いの様子に沿った反省ができるように助言する。 ○　ときわっ子会議ノートを活用し、提案理由や話合いのめあてに沿って話し合うことができたか、振り返る。	
9　先生の話	○　司会グループに対しては、計画委員会から話合いの取り組みに対してのがんばりを認め、称揚する。 ○　提案理由や話合いのめあてに沿った発言や２年生のことを考え、建設的な意見を出した児童を称賛し、今後の実践への意欲を高める。 ○　今後さらに、より良い話合い活動にするため、発言の仕方や進め方の課題について助言する。	
10　終わりの言葉		

研究協議の要点

【良い点】

○　児童の聞く態度、発表する態度がよい。話合いのスキルがよく身に付いている。

○　議題・・・児童が自分事として受け止めている。

○　２年生との活動、コロナ禍についてなど、今の状況を踏まえて話合いができていた。

○　キーワードマークの活用が効果的だった。

○　副司会や教師の振り返りがよかった。

【課題】

●　めあて…スキルのみの内容になっていたので、内容に関するめあてを取り入れる。

●　司会団の役割の明確化。特に、副司会の役割…指名だけにならない、進行に携わる役割にしていく。）

●　司会者「問題はありませんか。」→フロア「ありません。」のやり取りが気になる。この司会者の問いかけなしで、進行できるようにしたい。または、まとめて確かめるようにしたい。

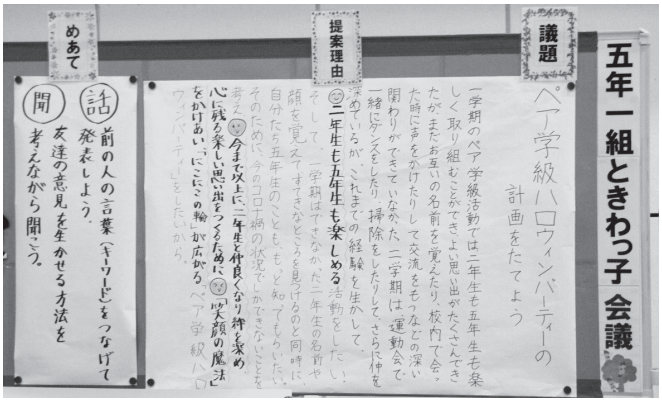
●　時数を考えた内容にする。話し合いや活動に見通しをもたせることが大切である。

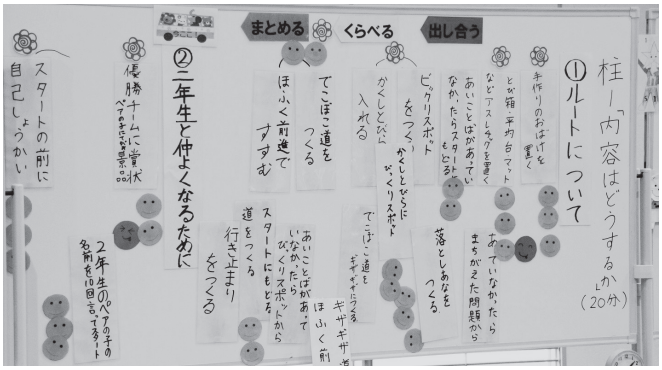
●　話合いの柱の立て方。時間内に終わらせるようにする。

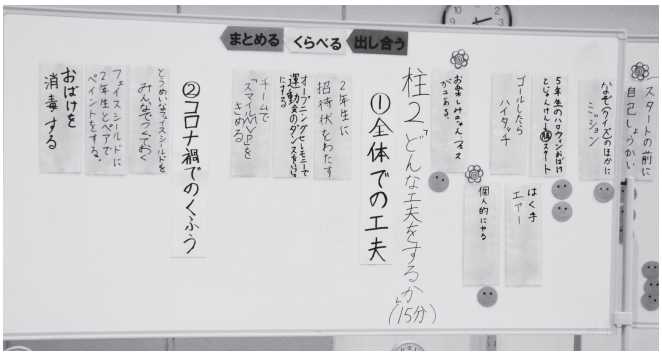
●　折り合いの付け方。どこで折り合いを付けさせるのか考えたい。

●　板書の在り方。思考の流れがある板書の構造に気を付けたい。

本時の板書







指導講話

文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部　教育課程調査官
安　部　恭　子 先生

【本授業に至る前段階として】

常盤小学校の学校目標「大好き自分、学級学校みんなが語れる常磐小物語」とあるように、今回の授業を見て、温かくきめ細かな学級経営と子どもたちの学級活動の実践の積み重ねを感じた。特活コーナーを見ても話合いの積み重ねやペア活動の蓄積、活動の振り返りがあり、とてもよい。授業中の挨拶や返事なども爽やかだ。今回、新型コロナウイルス感染症対策で半円型の机配置で子どもたち全員が前を向いて話を聞いていたが、発言をしている友達に体をしっかり向け、ときには頷きながら聞くことができていた。友達の意見と自分の考えを比べ、友達の意見とつなげて発言できていたことが素晴らしかった。また、発言中に止まった子に対して、みんながその子の発言しようとするのを見守っていて温かいクラスだと感じた。

【「司会グループ」の進め方について】

司会グループが頑張ろうとする意欲が感じられた。「前の人の言葉に続けて」、「友達の意見を生かせる方法で」など、今日の話合いのめあてを意識できるような声掛けがあり、フロアの子どもたちはめあてを意識して話合いができていた。司会グループの自己紹介では、できれば一人一人が自分の名前と、「こういうことをがんばります」と言えることも、少なくとも中学年以降は必要だと感じる。また、周りの子が、「〇〇さんはこういうところを頑張るのだな」と意識して聞いたり、進行を促す発言ができるようになったりするとさらによい。

【本授業の「議題」について】

本授業では「ペア学級ハロウィンパーティーの計画を立てよう」という議題が選定されていた。これまでの継続したペア学級である２年生との交流が価値を高めている。ただ、ハロウィンについては宗教的背景や国際教育の視点で、単なる仮装を楽しむだけではないことに留意して指導する必要がある。

今回の学習指導要領の解説では、実践とは「事前から事後までの一連の過程を踏まえたもの」と定義付けしている。それを踏まえると「ペア学級でハロウィンパーティーをしよう」というように議題を広義に設定することが望ましい。

【本授業全体について】

提案者の子どもが提案理由を話すとき、思いが溢れて長くなったと言っていた。それはとても素晴らしい。思いを込めてみんなで協力して作り、作ったものを生活に生かすことで、子どもたちの豊かな生活につながっていったり、人間関係がよりよくなったりする。話合い活動において「提案理由」や「話合いのめあて」は、合意形成の判断基準になる。本時の中に、パーティーで行う遊びがなかなか決まらない場面があった。合意形成の判断基準となる「提案理由」に戻るのだが、どの言葉に戻ればよいかが子どもたちに分かりづらかった。思いを共有するため、提案理由の中の「キーワード」を色分けする工夫をしていた。ピンクが「５年生も２年生も楽しめる」、ブルーが「２年生ともっと仲良くなれる」、グリーンが「笑顔の魔法を掛け合ってにこにこの輪が広がる」だった。しかし、ピンクはキーワードではなく、決まっていることの一つであり大前提である。グリーンの「笑顔の魔法をかけあう」は素敵な言葉だが子どもによって言葉の捉え方が違ってくる可能性がある。「キーワード」は、思いを共有しやすいものでなければならない。「話合いのめあて」については、技能面のみのめあてになっていた。技能面は大事であるが、今回の話し合う内容として何が大事なのか分かるようにしなければならない。技能面のものがあってもいいが、内容面についてのめあてを一つは入れるとよい。このように「提案理由」、「キーワード」、「話合いのめあて」は子どもたちの合意形成の判断基準になり得るものになっているか意識して授業を構成すると、子どもたちも話合いをよりよく成立させやすくなる。

本時は、話し合う内容が４つもあり、多いと感じた。１時間の授業で話し合って決めるべき項目は２つから多くても３つに絞ったほうがよい。１時間の授業で何に重点を置いて話し合うのか、計画委員会などを有効に使い、事前・事後の時間を使って決めることができるものはないかなど、内容の精選をすると、充実した話合いができ、見通しも立てやすい。最後に、意見の理由を「ハロウィン感が出るから」など、議題に沿って発言できていたが、相手意識をもち、２年生の立場に立った発言が出てくるとさらによかった。合意形成に至る判断基準の一つの視点として参考にしていただければと思う。

【特別活動において育成を目指す資質・能力】

特別活動は集団としての実践を通して「実生活や実社会で活用できる汎用的な力」を育んでいきたい。議題は同じでなくても、同じ学習過程を繰り返し行うことで、子どもたちが自分たちでよりよく決めることができるようになる。その力が将来に役立っていく。子どもたちが経験したことを生かしてスパイラルに展開していけるような話合い活動や実践活動を目指してほしい。また、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を大切にしながら、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係形成、よりよい集団生活の構築や、社会参画及び自己の実現に結びつけてほしい。社会の中でどのようによりよく生きていくか、自分らしさを発揮してどのように生きていくか、学びに向かって主体的に学習や生活に取り組むかが大切である。そのためにも「特別活動を通じた学校生活全体の基盤づくり（学校・学級づくり、人間関係形成能力の育成、社会参画や自己実現のために必要な力）」と「各教科等の学びを生かした特別活動の実践（各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動の中で生かすこと、自己の生活や進路・キャリアに学校での学びをどう生かすのかという振り返り）」の往還を大切にしたい。

【資質・能力の向上につながる学習過程の明確化】

「①問題の発見・確認②解決方法等の話合い③解決方法の決定④決めたことの実践⑤振り返り⑥次の課題解決へ」という流れで、事前から事後までを見通し、振り返りを次の活動や課題解決に生かす。大切なことは振り返りのあり方であり、単なる反省ではなく、よかった点、改善すべき点を考えられるようにすることである。教師の話の中で「こんなところがよかったよね」と具体的に示すとともに、高学年であれば「どこが課題だったと思う」など投げ掛けをすることも考えられる。

【学級活動における自発的、自治的活動を中心とした学級・ホームルーム経営の充実】

学級経営とは、学級という場において、一人一人の児童生徒の成長発達が円滑にかつ確実に進むように、学校経営の基本方針の下に、学級を単位として展開される様々な教育活動の成果が上がるよう諸条件を整備し運営していくことである。学級経営の一番の基盤となるのは子どもと先生の信頼関係、子ども同士のよりよい人間関係である。それを育てるのが学級活動(1)における自発的、自治的な活動である。学級経営との関連を図りながら、学習活動や学校生活の基盤となる学級経営の充実に資する、学びに向かう学習集団を形成してほしい。OECDによるPISA2003の調査で、「学級の雰囲気が良好であるほど数学的リテラシー得点が高く、生徒のモラールが高いほど得点が高い」ということが明らかになっている。雰囲気は目に見えないけれど確かにある。よりよい学級や学校の生活を築くための問題を発見したり、集団としての意見をまとめたりする話合い活動や、話合いで決まったことを友達と協力して実践したりする活動を通して、互いのよさを見つけ合い、違いを尊重し合って仲良くしたり、信頼し合ったりする関係を築くことは一朝一夕にはできないし、学級や学校に愛着をもてなければ、よりよくしたいという思いをもつことはできない。学校としてしっかり積み重ねていってほしい。

【学級活動の各活動の特質を踏まえた確かな指導】

学級活動(1)の指導のポイントは、「①目標に即して、どんな実践が大切かを考える②提案理由が話合いの収束の根拠になる（何のために行うのか、何のために話し合うのか）③折り合いをつけて合意形成を図る④振り返りを次の課題解決に生かす」である。「話し合うこと」は、基本的に「何をするか」「どのようにするか」「役割分担はどうするか」が３つの大きな柱であるが、発達の段階を踏まえて「どのようにするか」に重点をおいて実践をしてほしい。

３つの段階を踏まえた展開例として、① 出し合う （自分の考えを自分の言葉で発表）② くらべ合う （多様な考えを分類・整頓し、くらべ合う）③ まとめる＜決める＞ （話合いを収束【合意形成】）があり、子どもが見通しをもてるようにすることが大切である。板書を工夫し、思考の可視化・操作化・構造化を図る。よりよい合意形成に向けて安易な多数決で結論を出さず、少人数の意見も尊重し、生かす工夫はないかと考え、それぞれの意見をくらべ合いながら、「折り合い」をつけて合意形成をする。様々な意見のよさを生かして、みんなが納得できるようにする。その際、短冊などの思考ツールを効果的に活用し、分類整理は子どもたちができるようにする。授業の中で学ばせることが大切である。小見出しを適切につける等の工夫も行いたい。

特別活動における学習評価の工夫については、児童生徒のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなど共通理解を図るとともに、教師相互の話合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切である。

今こそ、特別活動を工夫して実践することが大切である。参画意識を高め、自治的能力を育み、自己有用感、自己効力感を高めたい。よりよい学級・学校生活に向け、自分たちの生活上の課題に気付き、創意工夫して自ら解決する力を育んでいきたい。

＜チャレンジシート＞　～みんなで特活をやろう、チャレンジしていこう～

【学級活動の実際】

１　「係活動」編

係活動は、児童が自分たちの力で、学級活動を楽しく豊かにするために話し合って係の組織を作り、仕事を分担し、創意工夫して協力して実践する自発的、自治的な活動です。

(1) 係活動を始める前に

係活動と当番活動の違いを明確に！！

〈係活動〉学級生活を共に楽しく豊かにするために児童が仕事を見いだし、創意工夫して自主的、実践的に取り組む活動。

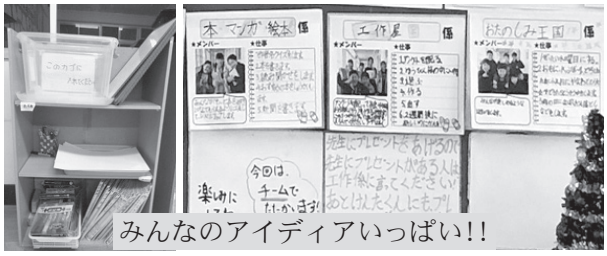
〈当番活動〉学級生活が円滑に運営されていくために、学級の仕事を全員で分担し、担当する活動。

教師が意識して指導するだけではなく、児童にも係活動と当番活動の違いが明確に理解できるようにします。低学年では、当番的な活動から、工夫が広がる活動になるように言葉掛けを行うことが考えられます。

・３～５人程度、できるだけ男女で構成とするとよいです。
・クラスをよくするための視点で考えたり、他の学年や学級に取材に行ったりするとよいです。

(2) 掲示の工夫

○　一年間を通して、どんな係が生まれていくのかは、先生の工夫一つで大きく変わります。学級の雰囲気を変えるような係が生まれるといいですね。係活動に一手間加えて、児童と一緒により良い学級目指していきましょう。



みんなのアイディアいっぱい!!

２　「話し合い活動」編

(1) 学級会の司会団の輪番制

司会団の決め方として、これまでの話合い活動の経験値を考慮したメンバーで構成する、縦割り班のメンバーで構成する、出席番号順で構成するなどの方法があります。できるだけ多くの児童が司会を経験できるように声掛けを行うとよいです。

○　計画委員会のメンバーは一班４～６人で構成しましょう。
　(例) 司会①副司会①黒板記録②ノート記録①
○　班の構成は、「司会経験者を分けて配置する。」「出席番号順にする。」などの方法が考えられます。
○　計画委員会の流れを年度始めにオリエンテーションし、意識統一を図るとよいでしょう。
○　学級会に対する児童の意欲を引き出すために、輪番制の掲示の仕方も工夫しましょう。
　※　司会団の輪番表は常時掲示にし、児童が自由に操作できるようにしておくことで見通しをもった活動が展開できます。

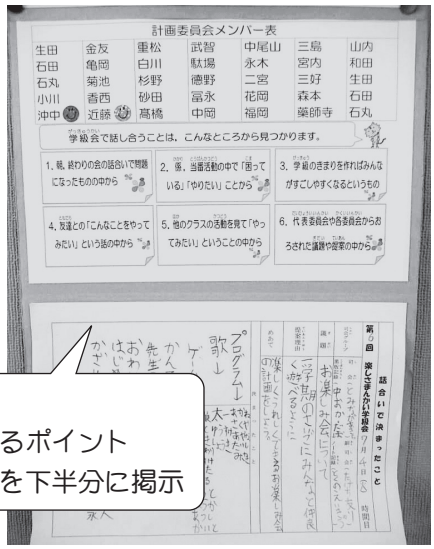
【例①】

・学級会名を表示
・次の担当の班を分かりやすく工夫して掲示

命挑学笑　学級会　司会団

	司会	副司会	黒板書記	黒板書記	ノート書記
1	米田	富田	大山	石井	田丸
2	楠本	永見	河野	中越	岡本
3	河﨑	川口	本郷	田中千	烏谷
4	田中陽	都子野	大塚	芝田	谷本
5	佐藤	仲原	大森	宮田	青木
6	冨永	宮浦	阿部	佐川	永渕

【例②】



【例③】

・出席番号順に５名ずつ
・学級会の議題を見つけるポイント
・学級会で決まったことを下半分に掲示

(2) 議題や学級会グッズ

○　議題の集め方

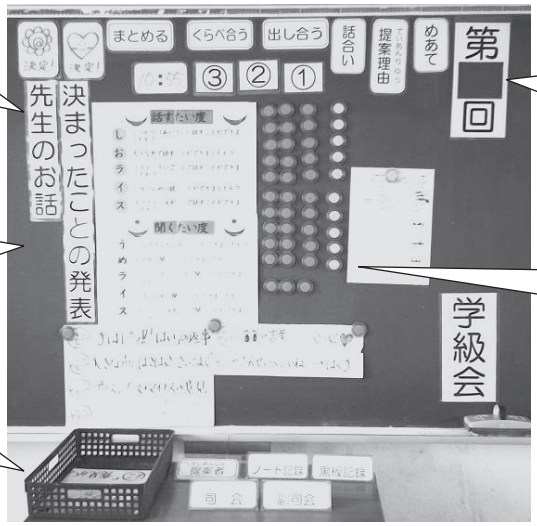
議題ボックスや議題ボードを活用することができます。「学級のみんなでしたいこと」「みんなへのお願い」「困っていること」など、項目を与えておくことで、いろいろな議題が集められます。学級開きの後、教師が議題について説明しておくとよいです。児童の必要性が高い議題で話し合うと、話合いも活発になります。

※議題の例・・・係決め、学級のキャラクター（旗・歌）決め、クラス遊び、高学年としての在り方、自分たち主催の行事（季節ごと）、絆を深めるために、など

○　学級会グッズ

「学級会コーナー」を設けたり、学級会グッズを作って、児童が使いやすいように保管しておいたりしておくと児童が自由に操作でき、話合いの流れを意識するのに有効です。

※　学級会、代表委員会など、話合いの流れ、学級会グッズは、学校で形式を統一しておくことで学校全体の足並みも揃い、次の学年へのスムーズな引き継ぎに繋がります。



・時刻掲示は、発達段階に応じて、アナログを準備しておくのもよい。

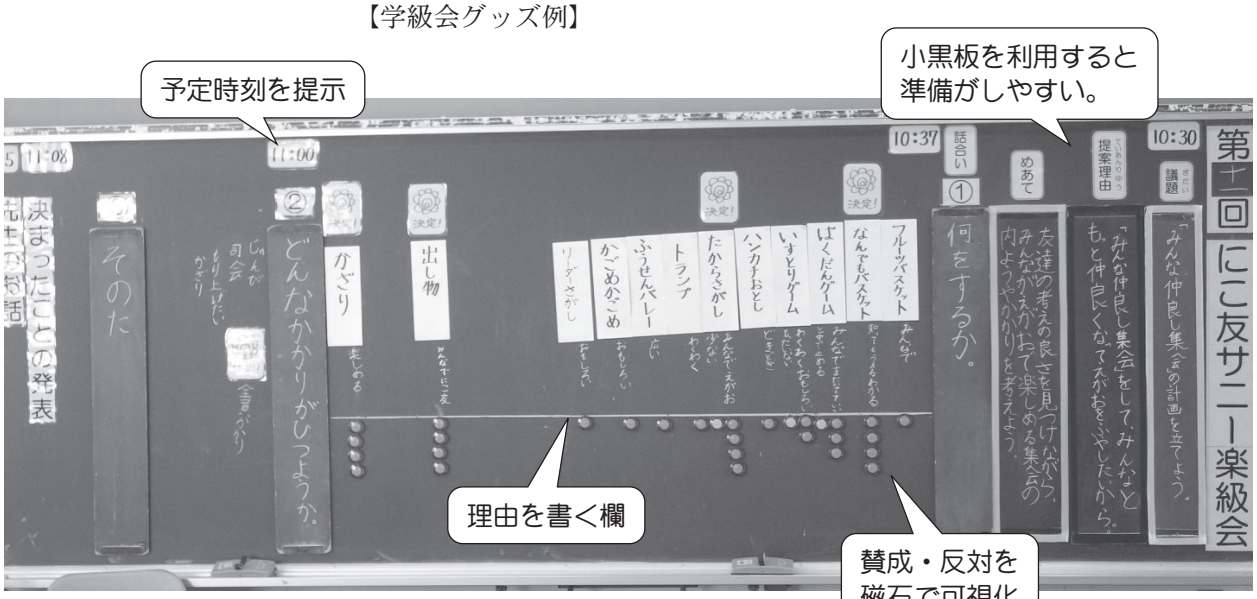
・発表の仕方については必要に応じて掲示するとよい。

・すべてのグッズをかごなどに入れて一括保管しておくと使いやすい。

・「第○回」を中抜き
・学級会名はクラスで決められるよう「学級会」のみ

賛成磁石・・・赤
反対磁石・・・青
赤は多めに準備しておくとよい。

【学級会グッズ例】

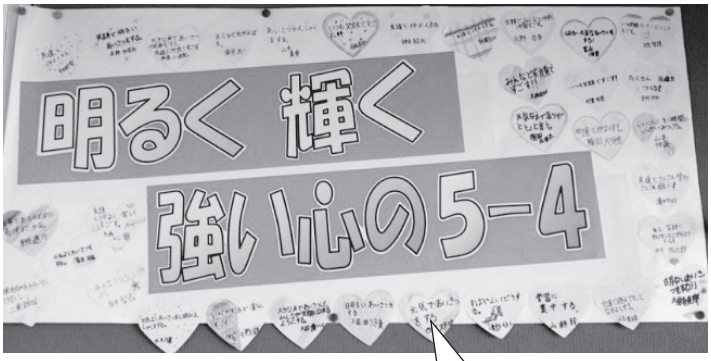


【学級会グッズを使った板書例】

３　活動の例

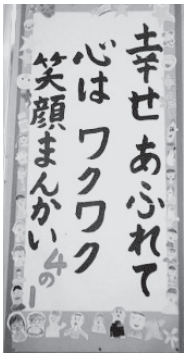
＜学級目標をつくろう＞

学校の目指す児童像、児童の思い、保護者の願い、学級担任の思いを加味して決定するとよいです。児童と話し合って決定したら、みんなで学級をつくっていくという意識を一年間もち続けられるよう、工夫して掲示しましょう。学級活動や学校行事の際に、学級目標に立ち返って振り返りを行うことで、次の活動への児童の意欲を高めることにつながります。



【学級目標の掲示例】

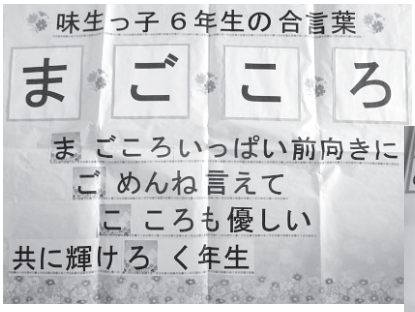
・落ち着いた色合いでまとまりのある掲示
・個人目標を周りに表示

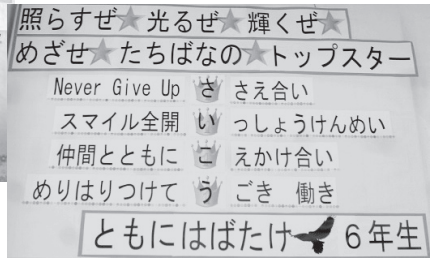


・教師や児童の手で手書き
・児童一人一人が描いた似顔絵を周りに配置

＜学年目標をつくろう＞

学年目標もつくると、学年団としての意識統一を図ることができます。決定したら工夫して掲示しましょう。学年フロアに一年間掲示する、朝の会でリズムよくみんなで唱えることで、学年の一員としての意識を高めることにつながります。学年の活動の際の振り返りにも効果的です。





【学年目標の例①】

〈学年集会で話し合って決定〉
①全体で意見の吸い上げ
「どんな学年にしたいか。」
②小グループで話合い
③グループごとの代表者がプレゼン（ホワイトボード使用）
④全体で話合い ⇒ 決定

【学年目標の例②】

〈コロナ禍を加味して、プロジェクトチームを立ち上げて決定・掲示〉
①全体で意見の吸い上げ「どんな学年にしたいか。」→ キーワード「スマイル」を教師から提示
②各クラスで スマイル 案を募集し、プロジェクトチームのメンバーで投票準備
③廊下に投票できるように掲示し、全員が投票し決定後、プロジェクトチームのメンバーで話し合い、リズムよく言えるように全体像を決定
④新たなプロジェクトチームメンバーを募集し、学年目標の掲示案を募集→投票→決定→掲示作成

特活イノベーションシート　～不易の特活～

学級活動（2）「情報機器のよりよい使い方を考えよう」　（小学５年生）学級活動（2）ア　基本的な生活習慣の形成

ねらい　日常生活における情報機器の使い方を振り返ることで、自己の課題に気付き、改善のための目標を立て、よりよく情報機器を使うことができる。

【事前】
① アンケートに記入する。
（朝の会など）
○ 情報機器（ゲーム機や携帯電話、スマートフォン等）の使用状況や使用する際に感じた利便性、問題点などについて振り返る。
○ アンケート結果をグラフにまとめたり、表に整理したりして、学級や自己の実態を把握できるようにする。

授業の流れ

① 今までの情報機器の使い方や、使う際に感じた利便性や問題点について振り返り、問題意識を高める。

② アンケート結果から、学級の情報機器の使用状況を知り、問題の原因について話し合う。（付箋等を活用して原因を整理しながら小グループで話し合う）

③ どのように情報機器と関わっていけばよいか、よりよい解決方法や努力事項について話し合う。

④ 本時を振り返り、自分の今後のめあてをもつ。

指導上の留意点

事前のアンケート結果を提示し、本時の学習についての関心を高める。

情報機器の使用状況や問題点について強調することで、課題意識をもたせる。

視力の低下や睡眠不足などの体への影響を知らせる。

自分の意志の弱さ以外にも、中毒性があることを知らせる。

養護教諭から話を聞いたり、外部の人にインタビューをしたりするなどして具体的な方法を考えられるようにする。

よりよい情報機器の使い方について、自分の考えをもち、話し合っている。（観察）

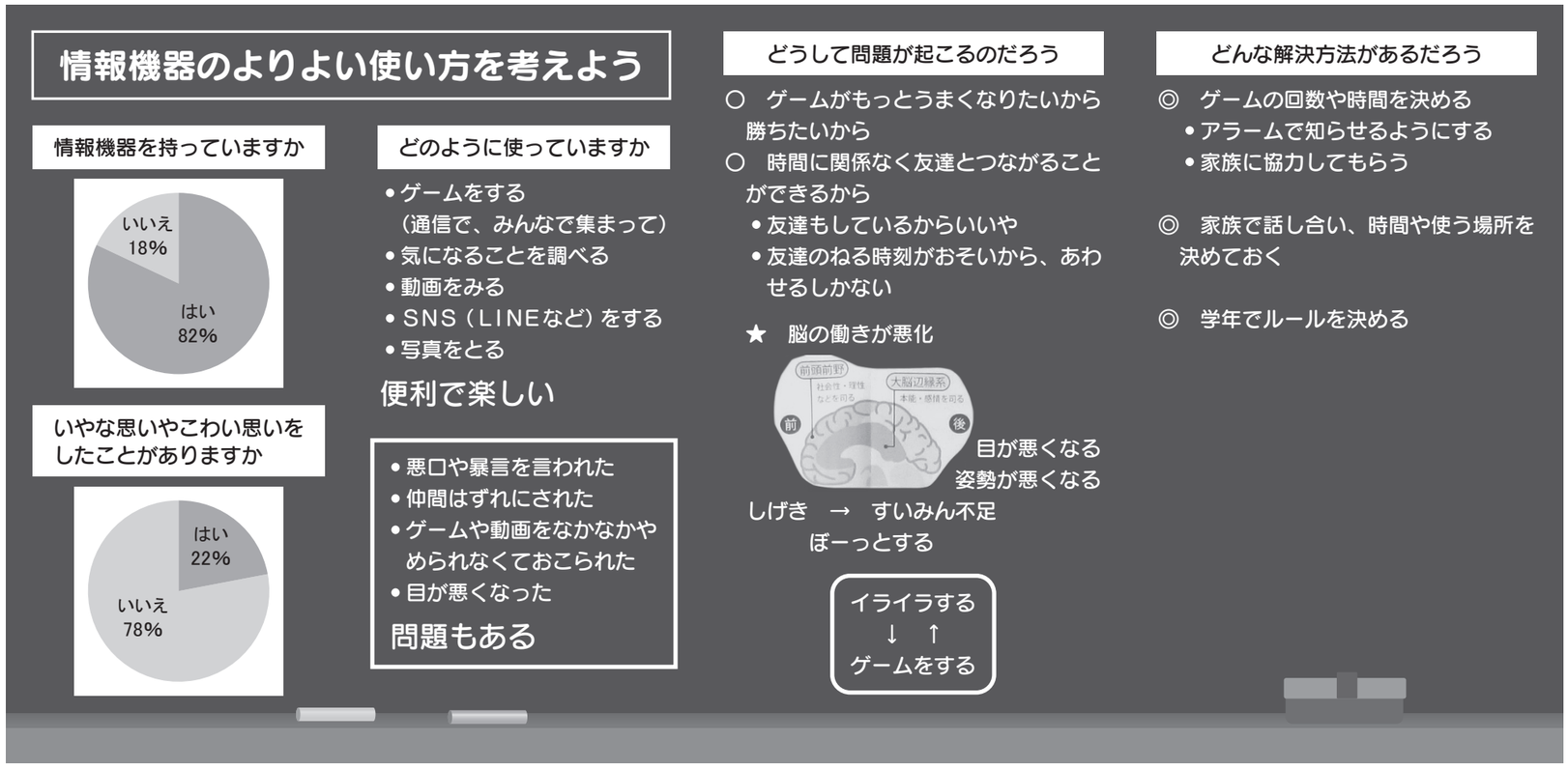
これからどのように情報機器を使っていくかについて、具体的なめあてを書かせる。

将来に向けて、今の自分にできることを考えることができたか。（観察、ワークシート）

【事後】
① １、２週間程度、自分のめあてに向けて努力できているかの記録を取る。
○ 家庭への啓発をし、より効果が上がるようにする。

② 朝の会を使い自分の取組を振り返る。
○ 取組を把握し、称賛したり励ましたりする。

板書の例



指導略案と資料を、愛教研Webサイト特別活動委員会のページに掲載しておりますのでご覧ください。

URL
http://aikyoken.just-size.net/cms/html/modules/pico/index.php?content_id=31

学級活動（3）「未来からの手紙～なりたい自分になるために～」

（中学３年生）学級活動（3）オ　主体的な進路の選択と将来設計

ねらい 将来の目標や夢の実現に向けて、今の自分にできることを考え、実践しようとする意欲や自己肯定感を高める。

【事前】

① 勉強と悩み～自分を見つめ直そう～
学級活動（2）
○ 受験生として、誰しもが当たり前のように悩みをもつこと、悩むことを、周囲の理解や互いの工夫で乗り越えていくことの大切さを押さえる。
○ 匿名で悩みを書いて、その悩みに対してアドバイスをさせる。
○ 悩んでいることを共有し、互いにアドバイスをした後、アドバイスをもとに行動目標を各自に立てさせる。

② 私のライフプラン～将来設計を考える～
学級活動（3）
○ 将来なりたい自分を未来から逆算させたり、卒業という節目や、人生の分岐点を大切にできるような将来設計をさせたりする。
○ 必要な資格や進路を明確にする。

授業の流れ

① 夢を実現させた人の話などを聞き、将来の自分の姿や生活の様子についてイメージする。

② 未来の自分から今の自分に励ましの手紙を書く。

③ なりたい自分になるために、今の自分に何ができるかを考え、ワークシートに書く。

④ 相互にアイデアを出し合い、今できることがたくさんあることに気づく。

⑤ グループで一言メッセージを書く。

⑥ 互いに、今の自分にできることに取り組もうとする気持ちを確認し合い、その感想を発表する。

⑦ 授業を振り返り、未来の自分あてに手紙を書く。

指導上の留意点

夢を実現させることのすばらしさや大変さに気づかせる。

学習面だけでなく、人間性や友人関係など、成長するきっかけは多岐にわたることに気づかせる。

将来に向けて、今の自分にできることを考えることができたか。（観察、ワークシート）

前向きな気持ちになれるようなメッセージを書かせる。

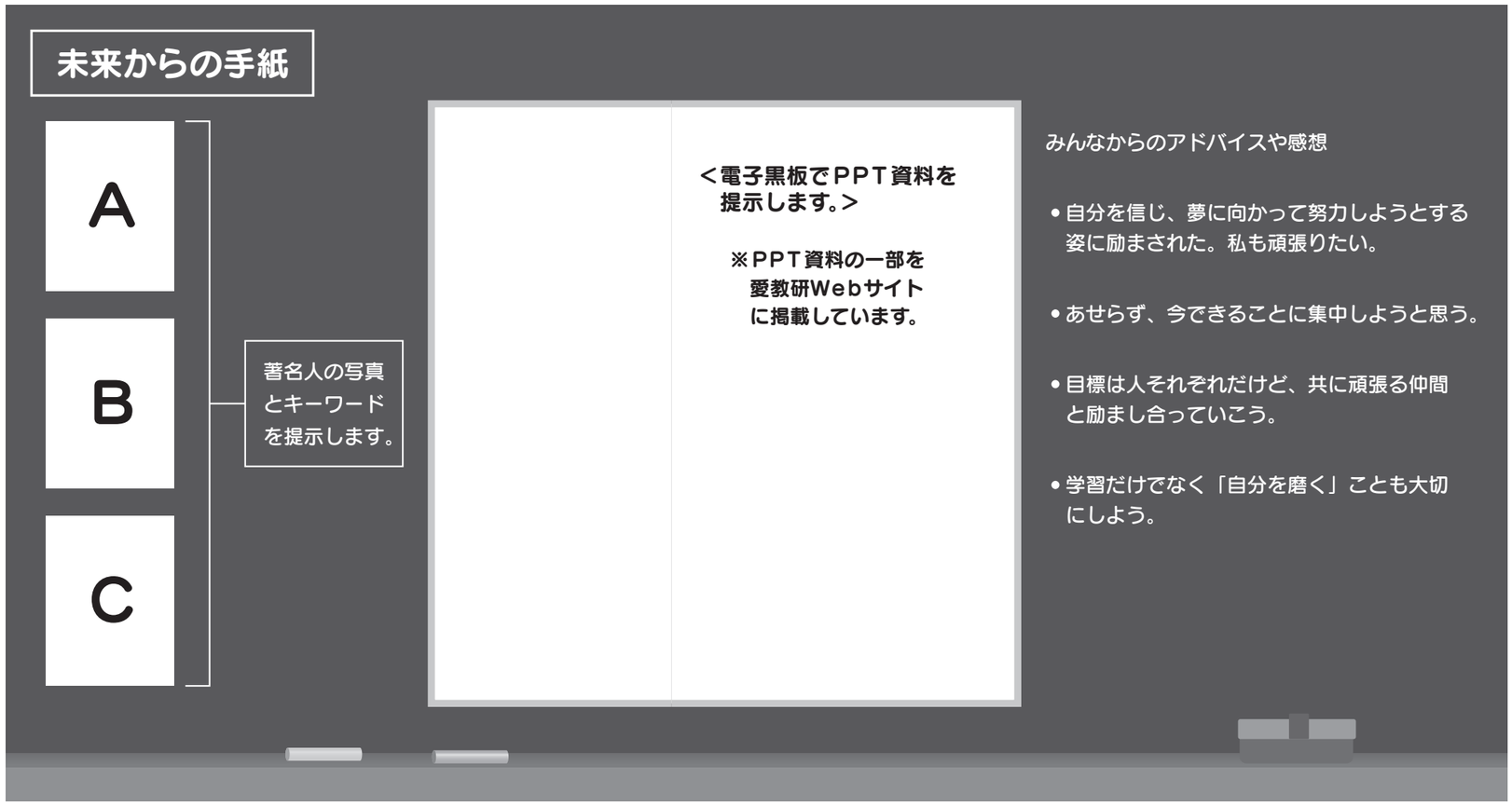
拍手をしたりプラスのコメントをしたりするなどして、互いに頑張りを応援しようとする気持ちを高める。

将来の目標や夢の実現に向けて前向きに実践しようとする意欲が高まったか。（観察、ワークシート）

【事後】

③ エールを送ろう～目標の再確認～
学級活動（2）
○ 目標を再確認した上で、頑張っているクラスメートに応援メッセージを送ることで、再度自分の進路に向けての目標や努力を設定させる。

板書の例



令和３年度について

１　今後の研究会について

（1）令和３年度第52回愛媛県特別活動夏季研究会

日　時　　令和３年７月30日（金）
場　所　　愛媛大学・松山市教育研修センター
内　容　　提案発表（分科会）・安部先生の講演※提案発表は令和２年度発表予定のもの

（2）第63回青少年赤十字研究会
（第15回四国特別活動研究大会プレ大会）

日　時　　令和３年11月５日（金）※予定
場　所　　今治市立常盤小学校
内　容　　授業実践（学級活動）・安部先生の指導助言・講演

２　特活掲示板「結」について

編集後記

５月末、始業式をはさんで、約３か月ぶりに学級全員がそろった日。あの日の何とも不安そうな子どもたちの顔が忘れられません。友達と離れて過ごした３か月。子どもたちが味わった喪失感を思うと胸が痛みました。

たくさんの制限がある中で、スタートした学校生活。それでも子どもたちは、「密にならない。でも、心はそばにいるよ」を合言葉に、様々な工夫をしながら、たくさんのすてきな思い出を作ってきました。そのたくましさに、胸が熱くなる思いでした。子どもたちも、教師も、「朝が来て、学校に来る」という当たり前のことが、どれほど幸せなことか。また、「人と関わる」ということが、どれほど尊いことかを実感する１年となりました。

子どもたちがこれから生きていく社会。厳しいこともたくさんあることでしょう。そんなとき、それを乗り越える力の源となる「自分はきっとできる」「一人じゃない。支えてくれる仲間がいる」といった経験を小学校・中学校の時代にたくさんしてほしいと願います。これからも、子どもたちの心に残る特別活動の在り方について、アイデアを出し合い、語り合い、模索していきたいと思います。

愛教研 Web ページに愛媛県特別活動委員会の取組や授業のヒントを掲載しています。ご覧ください。